

2022・11・9【角川俳句賞2023プランA1句】選10句

姉いもと歩幅たがへて暖かし

穢れたる白の消えゆく雪解かな

△怖ろしや大きくゆるる涅槃絵図

詠み続け選び続けし虚子忌かな

変換は挙式と出でし虚子忌かな

鉄橋に轟音の夏来りけり

R △振り返り弟を待つ捕虫網

小さき虫顔に当りぬ枯野原

民宿の朝食を待つ炬燵かな

水仙に晴れ間晴れ間の来ては去る

2023・～・20【角川俳句賞2023プランA】選18句

~~姉いもと歩幅たがへて暖かし~~

執刀のメスの切味遠花火

~~穢れたる白の消えゆく雪解かな~~

鳴く鳥の紅葉食はねど散らし行く

~~潮干狩り太平洋は水びたし~~

小さき虫顔に当りぬ枯野原

~~詠み続け選び続けし虚子忌かな~~

民宿の朝食を待つ炬燵かな

~~変換は<sup>の210:50am</sup>挙式と出でし虚子忌かな~~

大いなる楽器を背負ひ落葉道

~~涼しさや坊主頭に耳ふたつ~~

水仙に晴れ間晴れ間の来ては去る

~~鉄橋に轟音の夏来りけり~~

~~暑中見舞青きインクですらすらと~~

~~振り返り弟を待つ捕虫網~~

~~サンフランシスコ眩しやサングラス~~

金魚田に今青春の金魚かな

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

2023・3・22【角川俳句賞2023】 選15句

3

姉いもと歩幅たがへて暖かし 民宿の朝食を待つ炬燵かな

啓蟄や草木も水を吸ひ上げて 大いなる楽器を背負ひ落葉道

穢れたる白の消えゆく雪解かな 水仙に晴れ間晴れ間の来ては去る

詠み続け選び続けし虚子忌かな

変換は挙式と出でし虚子忌かな

涼しさや坊主頭に耳ふたつ

鉄橋に轟音の夏来りけり

サンフランシスコ眩しやサングラス

金魚田に今青春の金魚あり

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

小さき虫顔に当りぬ枯野原

おでんの香乗せて回送電車なり

の赤き青春黒かある  
3.23  
5:55 am

エウに解れ、エに解るる

エに解るるよ

泣のるん

金魚田の青春赤く黒くあり

2023.3.27  
5:37 am

2023.3.28 角川俳句賞 2023 プランA 選句

啓蟄や草木も水を吸ひ上げて  
水を吸ひ上げる  
3.29 0:15 am

穢れたる白の消えゆく雪解かな

変換の挙式と出でし虚子忌かな

うらやまとある

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

R より高くより遠くへと草の絮

小さき虫顔に当りぬ枯野原

おでんの香乗せて回送電車なり

民宿の朝食を待つ炬燵かな



2023・4・3【角川俳句賞2023】

選17句

5

穢れたる白の消えゆく雪解かな

潮干狩り太平洋は水びたし

変換の挙式と出でし虚子忌かな

詠み続け選び続けし虚子忌かな

金魚田に今青春の金魚あり

シュツと出る泡の石鹼若葉の夜

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

小さき虫顔に当りぬ枯野原

おでんの香乗せて回送電車なり

民宿の朝食を待つ炬燵かな

#8

美娘と遠き娘の朝の鏡 4.5 10:55 pm  
 蓮鏡  
 花のびは美人のひには 4.7 3am  
 とはまた別の 11:05 pm

2023・4・7【角川俳句賞2023】

選10句

6

穢れたる白の消えゆく雪解かな

菱餅と遠き縁の蓬餅

潮干狩り太平洋は水びたし

変換の挙式と出でし虚子忌かな

蛇のビは美人のビにも嫌はれて

シュツと出る泡の石鹼若葉の夜

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

小さき虫顔に当りぬ枯野原

おでんの香乗せて回送電車なり

民宿の朝食を待つ炬燵かな

7

麗かや小学校の投票所

大陸の旅のふらここ・ふらんどよ

おでんの香乗せて回送電車なり

竜天に登らんとする雷雨かな

高きより後ろへ落るふらここや

民宿の朝食を待つ炬燵かな

春雪や豆腐を賽の目に切つて

菱餅と遠き縁の蓬餅

味噌汁に豆腐油揚春の雪

潮干狩り太平洋は水びたし

牡丹より小さく冷たく春の雪

変換の挙式と出でし虚子忌かな

うすら氷の日影のままに日暮かな

詠み続け選び続けし虚子忌かな

健やかにうすら氷うかぶ日影かな

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

うすら氷のもうもやもやの水たまり

芽を吹いて地べたが低くなりけり

もやもやのやがてうやむや薄氷

蛇のビは美人のビにも嫌はれて

穢れたる白の消えゆく雪解かな

シュツと出る泡の石鹼若葉の夜

大陸を行くふらここよふらんどよ

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

大陸の旅ふらここよふらんどよ

小さき虫顔に当りぬ枯野原

2023・4・11【角川俳句賞2023 プランA】 選28句

麗かやサレ浮き小学校の投票所

~~菱餅~~と遠き縁の蓬餅

竜天に登らんとする雷雨かな

スーパーの屋上で売る苗木かな

春雪や豆腐を賽の目に切つて

花種を蒔くや赤子は縁側に

味噌汁に豆腐油揚春の雪

桜狩花見の巷下に見て

牡丹より小さく冷たく春の雪

潮干狩り太平洋は水びたし

うすら氷の日影のままに日暮かな

変換の挙式と出でし虚子忌かな

健やかにうすら氷うかぶ日影かな

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

穢れたる白の消えゆく雪解かな

芽を吹いて地べたが低くなりけり

大陸を行くふらここよふらんどよ

蛇のビは美人のビにも嫌はれて

大陸の旅ふらここよふらんどよ

シュツと出る泡の石鹼若葉の夜

大陸の旅のふらここ・ふらんどよ

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

高きより後ろへ落るふらここや

寒風の殺風景の中に立つ

小さき虫顔に当りぬ枯野原

おでんの香乗せて回送電車なり

民宿の朝食を待つ炬燵かな

日々ひとつ割つて減りゆく寒卵

8

4.12 3:10 am  
見せて  
牡丹の芽



2023・4・12【角川俳句賞2023 プランA】 選28句

9

12行3段組14ボ 2023年4月12日 10:53 ↑桐10

麗かや小学校の投票所 潮干狩り太平洋は水びたし

おでんの香乗せて回送電車なり

竜天に登らんとする雷雨大ふざけかな

変換の挙式と出でし虚子忌かな

民宿の朝食を待つ炬燵かな

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

牡丹の芽地べたを少し低く見て

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

うすら氷の日影のままに日暮かな

浮ぶもの埃・閃き・雲の峰

日々ひとつ割つて減りゆく寒卵

健やかにうすら氷うかぶ日影かな

きらきらと嫌ひな人のサングラス

穢れたる白の消えゆく雪解かな

鳥賊リングフライ見通し良かりけり

大陸に行くふらここよふらんどよ

燕の子庇の上はまだ知らず

高さより後ろへ落るふらここや

シュツと出る泡の石巖若葉の夜

風船を逃せしほどの一大事

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

スーパーの屋上で売る苗木かな

産卵を強ひるが如く石榴割る

花種を蒔くや赤子は縁側に

寒風の殺風景の中に立つ

桜狩花見の巷下に見て

小さき虫顔に当りぬ枯野原



2023・4・12【角川俳句賞2023 プランA\139】 選24句

10

12行3段組14ポ 2023年4月12日 16:39 ^1 < 桐10

竜天に登らんとする大雷雨 浮ぶもの埃・閃き・雲の峰

味噌汁に豆腐切り込む春の雪 きらきらと嫌ひな人のサングラス

健やかにうすら氷うかぶ日影かな 燕の子庇の上はまだ知らず

穢れたる白の消えゆく雪解かな シュツと出る泡の石鹼若葉の夜

大陸を行くふらここよふらんどよ 踏切の遠く鳴り出す刈田かな

風船を逃せしほどの一大事 産卵を強ひるが如く石榴割る

スーパーの屋上で売る苗木なり 寒風の殺風景の中に立つ

花種を蒔くや赤子は縁側に 小さき虫顔に当りぬ枯野原

桜狩花の巷を下に見て おでんの香乗せて回送電車なり

潮干狩り太平洋は水びたし 民宿の朝食を待つ炬燵かな

変換の挙式と出でし虚子忌かな 右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

花満ちて小学校の投票所 日々ひとつ割って減りゆく寒卵

に 立ち戻す 4.13 3:10 am

四季:  
20-4-2-6

2023・4・13【角川俳句賞2023

プランA/99

選33句

11

竜天に登らんとする大雷雨

桜狩花見の巷下に見て

シユツと出る泡の石鹼若葉の夜

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

潮干狩り太平洋は水びたし

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

湯気立てて春田は息を吹き返す

変換の挙式と出でし虚子忌かな

産卵を強ひるが如く石榴割る

うすら氷の日影のままに日暮かな

白あればこそその紅白玉椿

寒風の殺風景の中に立つ

健やかにうすら氷うかぶ日影かな

紫木蓮花大12き12くて枝細し

小さき虫顔に当りぬ枯野原

穢れたる白の消えゆく雪解かな

みづからの影に散りゆ35 pmく雪柳

おでんの香乗せて回送電車なり

裏庭の無傷な雪も解け始む

食欲な光を浴び32 pmて花躑躅

民宿の朝食を待つ炬燵かな

国境を越えて流水群がり来

花満ちて小学校の投票所

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

大陸を行くふらここよふらんどよ

自転車に乗れて落花の中を行く

日々ひとつ割つて減りゆく寒卵

風船を逃せしほどの一大事

浮ぶもの埃・閃き・雲の峰

スーパーの屋上で売る苗木なり

きらきらと嫌ひな人のサングラス

花種を蒔くや赤子は縁側に

燕の子庇の上はまだ知らず

12行3段組14ポ 2023年4月13日 10:45 ↑ 桐10

翌日▽



詠志の歌  
考統

薄うれ

竜天に登らんとする大雷雨

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

湯気立てて春田は息を吹き返す

健やかにうすら氷うかぶ日影かな

うすら氷の日影のままに日暮かな

うすら氷を見てやる他はなかりけり

うすら氷に手を貸すこともままならず

うすら氷を看取るが如く見てをりぬ

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

残りたる雪よ氷よ日の暮よ

裏庭の無傷な雪も解け始む

穢れたる白の消えゆく雪解かな

~~雪解の風よ濁つて明るくて~~

国境を越えて流水群南下

流水に乗る白熊の親子かな

大陸を行くふらここよふらんどよ

風船を逃せしほどの一大事

色紙と違ふ紙風船の色

浮べ浮べと紙風船を励まして

スーパーの屋上で売る苗木なり

花種を蒔くや赤子は縁側に

桜狩花見の巷下に見て

潮干狩り太平洋は水びたし

変換の挙式と出でし虚子忌かな

白あればこそその紅白玉椿

細き枝に大きな花の紫木蓮

雪柳影を薄めるまで散りぬ

点描の赤を躑躅の蕾かな

花満ちて小学校の投票所

自転車に乗れて落花の中を行く

浮ぶもの埃・閃き・雲の峰

きらきらと嫌ひな人のサングラス

燕の子庇の上はまだ知らず

シュツと出る泡の石鹼若葉の夜

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

産卵を強ひるが如く石榴割る

12

10:52 pm

11:55 am 出来ぬまま 11:10 pm

あけ 11:25 am

cf 夏

2023・4・13【角川俳句賞2023 プランA/12】 選42句

寒風の殺風景に立ち尽す

小さき虫顔に当りぬ枯野原

おでんの香乗せて回送電車なり

民宿の朝食を待つ炬燵かな

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

日々ひとつ割つて減りゆく寒卵

2023・4・14【角川俳句賞2023 プランA/12】 選38句

12行3段組14ポ 2023年4月14日 07:59 へ1 桐10

竜天に登らんとする大雷雨

流水に乗せ白熊を奉る

点描の赤を躑躅の蕾かな

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

国境を越えて流水群南下

花満ちて小学校の投票所

湯気あげて春田は息を吹き返す

大陸を行くふらここよふらんどよ

自転車に乗れて落花の中を行く

健やかにうすら氷うかぶ日影かな

風船を逃せしほどの一大事

浮ぶもの埃・閃き・雲の峰

うすら氷の日影のままに日暮かな

スーパーの屋上で売る苗木なり

燕の子庇の上はまだ知らず

うすら氷を看取るが如く見てをりぬ

花種を蒔くや赤子は縁側に

シュツと出る泡の石鹼若葉の夜

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

桜狩花見の巷下に見て

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

~~うすら氷に手を貸すことも出来ぬまま~~

潮干狩り太平洋は水びたし

産卵を強ひるが如く石榴割る

~~うすら氷を見てやる他に術もなし~~

変換の挙式と出でし虚子忌かな

寒風の殺風景に立ち尽す

~~残りたる雪よ氷よ日の暮よ~~

白あればこそその紅白玉椿

小さき虫顔に当りぬ枯野原

裏庭の無傷な雪も解け始む

細き枝に大きな花の紫木蓮

おでんの香乗せて回送電車なり

穢れたる白の消えゆく雪解かな

雪柳影を薄めるまで散るか

民宿の朝食を待つ炬燵かな

7B

13

いこひこ教いサレか8:05  
教い5えく



2023・4・14【角川俳句賞2023 プランA\12】

選38句

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

日々ひとつ割つて減りゆく寒卵

2023・4・14【角川俳句賞2023】プランA\110 選29句

12行3段組14ポ 2023年4月14日 08:23 へ1 桐10

竜天に登らんとする大雷雨

潮干狩り太平洋は水びたし

小さき虫顔に当りぬ枯野原

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

変換の挙式と出でし虚子忌かな

おでんの香乗せて回送電車なり

湯気あげて春田は息を吹き返す

白あればこそその紅白玉椿

民宿の朝食を待つ炬燵かな

健やかにうすら氷うかぶ日影かな

細き枝に大きな花を紫木蓮

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

うすら氷の日影のままに日暮かな

雪柳影を厭ひて散り続く

日々ひとつ割つて減りゆく寒卵

うすら氷を看取るが如く見てをりぬ

点描の赤を躑躅の蕾かな

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

自転車に乗れて落花の中を行く

裏庭の無傷な雪も解け始む

燕の子庇の上はまだ知らず

流水に11:50 am乗せ白熊を奉る

シュツと出る泡の石鹼若葉の夜

大陸に行くふらここよふらんどよ

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

風船を逃せしほどの一大事

産卵を強ひるが如く石榴割る

スーパ一の屋上で売る苗木なり

寒風の殺風景に立ち尽す

B

14

9:30 am

2023・4・16 角川俳句賞2023 プランA/112 選26句

12行3段組14ポ 2023年4月16日 17:18 へ1 桐10

永き日の雨の合間の眩しさよ おなれや 4.18 5:15 am

白あればこそその紅白玉椿

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

竜天に登らんとする電波塔 そ 4.18 4pm

細き枝に大きな花を紫木蓮 枝よりも? 4.18 0:20 am

日々ひとつ割つて減りゆく寒卵

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

点描の赤を躑躅の蕾かな ま/路

湯気あげて春田は息を吹き返す

自転車に乗れて落花の中を行く

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

燕の子庇の上はまだ知らず

裏庭の無傷な雪も解け始む

シユツと出る泡の石鹼若葉の夜

流水に白熊を乗せ供物とす お供へに 4.18 DioSam

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

大陸を行くふらここよふらんどよ

産卵を強ひるが如く石榴割る

風船を逃せしほどの一大事

寒風の殺風景に立ち尽す

スーパーの屋上で売る苗木なり

小さき虫顔に当りぬ枯野原

潮干狩り太平洋は水びたし

おでんの香乗せて回送電車なり

変換の挙式と出でし虚子忌かな

民宿の朝食を待つ炬燵かな



春なれや雨の合間の眩しさも

潮干狩り太平洋は水びたし

おでんの香乗せて回送電車なり

湯気あげて春田は息を吹き返す

変換の挙式と出でし虚子忌かな

日々ひとつ割つて減りゆく寒卵

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

点描の赤を躑躅の蕾かな

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

自転車に乗れて幼子花に笑む

裏庭の無傷な雪も解け始む

燕の子庇の上はまだ知らず

流水に乗る白熊の親子かな

シュツと出る泡の石鹼若葉の夜

竜天に登らんとする電波塔

産卵を強ひるが如く石榴割る

大陸を行くふらここよふらんどよ

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

風船を逃せしほどの一大事

寒風の殺風景に立ち尽す

白あればこそその紅白玉椿

小さき虫顔に当りぬ枯野原

スーパ一の屋上に立つ苗木市

民宿の朝食を待つ炬燵かな

枝よりも大きく重く紫木蓮

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

白あればこそその紅白玉椿

民宿の朝食を待つ炬燵かな

17

春なれや雨の合間の眩しさも 潮干狩り太平洋は水びたし

おでんの香乗せて回送電車なり

湯気あげて春田は息を吹き返す 変換の挙式と出でし虚子忌かな

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ 点在の赤は躑躅の蕾なり

味噌汁に豆腐切り込む春の雪 自転車に乗れて嬉しや花に笑む

裏庭の無傷な雪も解け始む 燕の子庇の上はまだ知らず

白熊にまだ流水の大いなる シュツと出る泡の石鹼若葉の夜

竜天に登らんとする電波塔 産卵を強ひるが如く石榴割る

大陸を行くふらここよふらんどよ 踏切の遠く鳴り出す刈田かな

風船を逃せしほどの一大事 寒風の殺風景に立ち尽す

白あればこそその紅白玉椿 小さき虫顔に当りぬ枯野原

スーパーの屋上に立つ苗木市 4.22 2pm 民宿の朝食を待つ炬燵かな

紫木蓮大きく重く枝に立つ 右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

△ 枝をよむ



2023・4・23【角川俳句賞2023 プランA/132】 選27句

4.24 4am  
すふまご自由草木の春国を

(18)

麗かや玉転がしのポールペン スーパーの屋上に立つ苗木市

春昼や時計も少し怠けたき 縦長の力尊し紫木蓮

春なれや雨の合間の眩しさも 潮干狩り太平洋は水びたし

湯気あげて春田は息を吹き返す 変換の拳式と出でし虚子忌かな

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ 点在の赤は躑躅の蕾なり

味噌汁に豆腐切り込む春の雪 自転車に乗れて嬉しや花に笑む

裏庭の無傷な雪も解け始む 燕の子庇の上はまだ知らず

白熊にまだ流水の大いなる シュツと出る泡の石鯨若葉の夜

竜天に登らんとする電波塔 産卵を強ひるが如く石榴割る

大陸に行くふらここよ、ふらんどよ 踏切の遠く鳴り出す刈田かな

風船を逃せしほどの一大事 寒風の殺風景に立ち尽す

白あればこそその紅白玉椿 小さき虫顔に当りぬ枯野原

12行3段組14ボ 2023年4月23日 18:48 へ1 桐10

民宿の朝食を待つ炬燵かな

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

おでんの香乗せて回送電車なり

嬉ひも指ししも夏休なる

玄仙の色配せてお了 柳 22:00

[打つておれ]

衣へるものへへぬもの 碓氷の夜

母の息入りし紙 同船下車 4:24 0:40 am

母んちくと朝 衣ゆふべ 春の目下 3am

2023.4.24

角川俳句賞2023 プランA/13

選31句  
12行3段組14ボ 2023年4月24日 08:25 ↑ 桐10

麗かや玉転がしのポールペン

スーパーの屋上に立つ苗木市

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

春昼や時計も少し怠けたき

変換の拳式と出でし虚子忌かな

寒風の殺風景に立ち尽す

春なれや雨の合間の眩しさも

ぼんやりと朝昼ゆふべ春の風邪

小さき虫顔に当りぬ枯野原

湯気あげて春田は息を吹き返す

白あればこそその紅白玉椿

民宿の朝食を待つ炬燵かな

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

垂直の力尊し紫木蓮

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

点在の赤は躑躅の蕾なり

おでんの香乗せて回送電車なり

白熊にまだ流氷の大いなる

自転車に乗れて嬉しや花に笑む

真空を自由落下の布団かな

裏庭の無傷な雪も解け始む

圧力の圧力鍋や雲の峰

竜天に登らんとする電波塔

燕の子庇の上はまだ知らず

大陸を行くふらここよ、ふらんどよ

シュツと出る泡の石鹼若葉の夜

風船を逃せしほどの一大事

紙よりも重たき鉄露けしや

潮干狩り太平洋は水びたし

産卵を強ひるが如く石榴割る

玉を転がす  
4:25:50 PM

19

若草やうっしの花の白むにもいさ

羽根 4:25:11 4:55 am

石の半に紅露かてる  
4:25 4:50 am



2023.4.25 角川俳句賞2023 プランA\14 選31句

12行3段組14ボ 2023年4月25日 16:43 桐10

↑先の 4:26  
と323おぼけ 11:30 am  
おぼけし

ヤ-5 (3中)  
52-3  
121-0

暖かや玉を転がすボールペン

スーパーの屋上に立つ苗木市

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

春昼や時計も少し怠けたき

変換の拳式と出でし虚子忌かな

寒風の殺風景に立ち尽す

春なれや雨の合間の眩しさも

ぼんやりと朝昼ゆふべ春の風邪

小さき虫顔に当りぬ枯野原

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

白あればこそその紅白玉椿

民宿の朝食を待つ炬燵かな

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

垂直の力尊し紫木蓮

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

白熊にまだ流氷の大いなる

点在の赤は躑躅の蕾なり

おでんの香乗せて回送電車なり

裏庭の無傷な雪も解け始む

自転車に乗れて嬉しや花に笑む

真空を自由落下の羽根布団

湯気あげて春田は息を吹き返す

圧力の圧力鍋や雲の峰

竜天に登らんとする電波塔

燕の子庇の上はまだ知らず

大陸を行くふらここよ、ふらんどよ

シュツと出る泡の石鹼若葉の夜

風船を逃せしほどの一大事

紙よりも鉄重たし露けしや

潮干狩り太平洋は水びたし

産卵を強ひるが如く石榴割る

↑先の 4:26  
おぼけし 4:45 am

20

↑先の 4:26  
おぼけし 4:45 am

おぼけし 4:26 5am

2023.4.26 角川俳句賞2023 プランA/159 選31句

21

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

白熊にまだ流水の大いなる

裏庭の無傷な雪も解け始む

湯気あげて春田は息を吹き返す

春昼を時計も少し遅れたし

春なれや雨の合間の眩しさも

竜天に登らんとする電波塔

大陸に行くふらここよ、ふらんどよ

風船を逃せしほどの一大事

潮干狩り太平洋は水びたし

スーパーの屋上に立つ苗木市

変換の挙式と出でし虚子忌かな

ぼんやりと朝昼ゆふべ春の風邪

白あればこそその紅白玉椿

垂直の力尊し紫木蓮

点在の赤は躑躅の蕾なり

自転車に乗れて嬉しや花に笑む

圧力の圧力鍋や雲の峰

燕の子庇の上はまだ知らず

シュツと出る泡の石鹼若葉の夜

紙よりも鉄重たし露けしや

産卵を強ひるが如く石榴割る

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

12行3段組14ボ 2023年4月26日 09:14 桐10

ペン先の球も勤労感謝の日

寒風の殺風景を吹き渡る

小さき虫顔に当りぬ枯野原

民宿の朝食を待つ炬燵かな

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

おでんの香乗せて回送電車なり

真空を自由落下の羽根布団

ふくさんて たき火 4:15 pm  
ふくと病室う 2:05 pm  
春の風

眠らなくて 4:27  
眠りん落す 11:45  
春の月行 am  
ねておいて 1:50 am  
王様もやもやと  
春の月那

12  
11  
10  
9  
8  
7  
6  
5  
4  
3  
2  
1  
1:35 pm

山奥に  
のまじり  
4:27  
1 pm

花の芽つくづく枝の肌  
肌荒れといふは枝の芽か  
るは



22

明日は晴れ三月並の気温とや

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

白熊にまだ流水の大きいなる

裏庭の無傷な雪も解け始む

湯気あげて春田は息を吹き返す

春なれや雨の合間の眩しさも

竜天に登らんとする電波塔

ふくらんでふつと消えたき春の昼

大陸を行くふらここよ、ふらんどよ

風船を逃せしほどの一大事

潮干狩り太平洋は水びたし

スーパ一の屋上に立つ苗木市

変換の挙式と出でし虚子忌かな

ぼんやりと朝昼ゆふべ春の風邪

鳥雲に寸の未練も残さずに

春なれや桜の鯛と花の鳥賊

蛤は浜辺の栗よふつくらと

肌荒れといふべき枝の芽吹かな

白あればこそその紅白玉椿

山奥に漁師の迷ふ桃の花

垂直の力尊し紫木蓮

点在の赤は躑躅の蕾なり

自転車に乗れて嬉しや花に笑む

圧力の圧力鍋や雲の峰

燕の子庇の上はまだ知らず

シユツと出る泡の石鹼若葉の夜

紙よりも鋏重たし露けしや

産卵を強ひるが如く石榴割る

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

ペン先の球も勤労感謝の日

寒風の殺風景を吹き渡る

親しさの非ピリン系の風邪葉

小さき虫顔に当りぬ枯野原

民宿の朝食を待つ炬燵かな

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

おでんの香乗せて回送電車なり

真空を自由落下の羽根布団



2023・4・27

丁梅の2月

【角川俳句賞2023 プランA】16選37句

明日は晴れ三月並の気温とや

肌荒れの無惨な枝にくと芽吹く

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

白あればこそその紅白玉椿

おでんの香乗せて回送電車なり

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

山奥に漁師さまよふ桃の花

真空を自由落下の羽根布団

白熊にまだ流水の大いなる

垂直の力尊し紫木蓮

裏庭の無傷な雪も解け始む

点在の赤は躑躅の蕾なり

湯気あげて春田は息を吹き返す

自転車に乗れて嬉しや花に笑む

竜天に登らんとする電波塔

圧力の圧力鍋や雲の峰

ふくらんでふつと消えたき春の昼

燕の子庇の上はまだ知らず

大陸に行くふらここよ、ふらんどよ

シユツと出る泡の石鯨若葉の夜

風船を逃せしほどの一大事

紙よりも鉢重たし露けしや

潮干狩り太平洋は水びたし

産卵を強ひるが如く石榴割る

スーパーの屋上に立つ苗木市

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

変換の拳式と出でし虚子忌かな

ペン先の球も勤労感謝の日

ぼんやりと朝昼ゆふべ春の風邪

寒風の殺風景を吹き渡る

鳥雲に寸の未練も残さずに

をかしさのぴりん・ひぴりん風邪葉

春なれや桜の鯛に花の烏賊

小さき虫顔に当りぬ枯野原

蛤は浜辺の栗よふつくらと

民宿の朝食を待つ炬燵かな

17行3段組14ボ 2023年4月27日 09:48 へ1 桐10

2023・4・27【角川俳句賞2023 プランA/170「桜の鯛」】

24

選行 36 歳組 14 泊 2023 年 4 月 28 日 00:05 へ 1 桐 10

明日は晴れ三月並の気温とや

白あればこそその紅白玉椿

おでんの香乗せて回送電車なり

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

山奥に漁師さまよふ桃の花

真空を自由落下の羽根布団

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

垂直の力尊し紫木蓮

白熊にまだ流水の大きいなる

点在の赤は躑躅の蕾なり

裏庭の無傷な雪も解け始む

自転車に乗れて嬉しや花に笑む

湯気あげて春田は息を吹き返す

圧力の圧力鍋と雲の峰

竜天に登らんとする電波塔

燕の子庇の上はまだ知らず

ふくらんでふつと消えたき春の昼

シュツと出る泡の石鹼若葉の夜

大陸に行くふらこ子よ、ふらん奴よ

紙よりも鈇おもたし露けしや

風船を逃せしほどの一大事

産卵を強ひるが如く石榴割る

潮干狩り太平洋は水びたし

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

スーパーの屋上に立つ苗木市

ペン先の球よ勤労感謝の日

変換の挙式と出でし虚子忌かな

寒風の殺風景を吹き渡る

鳥雲に寸の未練も残さずに

CMはぴりん・ひぴりん風邪薬

春なれや桜の鯛に花の烏賊

小さき虫顔に当りぬ枯野原

蛤は浜辺の栗よふつくらと

民宿の朝食を待つ炬燵かな

肌荒れの激しき枝にくと芽吹く

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ



2023・4・28

角2023A  
【筆筒の角】

25  
選句

明報

明日は晴れ三月並の気温とや

蝶も来よ浜にひらひら干鰯

小さき虫顔に当りぬ枯野原

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

蛤は浜辺の栗よふつくらと

民宿の朝食を待つ炬燵かな

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

肌荒れの激しき枝にくと芽吹く

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

白熊にまだ流氷の大いなる

白あればこそその紅白玉椿

おでんの香乗せて回送電車なり

裏庭の最後の雪も解け始む

山奥に漁師さまよふ桃の花

真空を自由落下の羽根布団

湯気あげて春田は息を吹き返す

垂直の力尊し紫木蓮

嬉々として春泥の子となりけり

点在の赤は躑躅の蕾なり

竜天に登らんとする電波塔

自転車に乗れて嬉しや花に笑む

ふくらんでふつと消えたき春の昼

圧力の圧力鍋と雲の峰

大陸を行くふらこ子よ、ふらん奴よ

燕の子庇の上はまだ知らず

風船を逃せしほどの一大事

シュツと出る泡の石鹼若葉の夜

潮干狩り太平洋は水びたし

紙よりも鉄おもたし露けしや

スーパーの屋上に立つ苗木市

産卵を強ひるが如く石榴割る

変換の挙式と出でし虚子忌かな

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

亀鳴くと秋の蚯蚓に伝えてよ

ペン先の球よ勤労感謝の日

鳥雲に寸の未練も残さずに

寒風の殺風景を吹き渡る

春なれや桜の鯛に花の鳥賊

CMはぴりん・ひぴりん風邪薬



2023・4・28【角川俳句賞2023

プランA 桜の鯛180】

選39句

行3段組14ポ 2023年4月28日 10:53 ↑1 ↓桐10

明日は晴れ三月並の気温とや

蝶も来よ浜にひらひら干鱈

小さき虫顔に当りぬ枯野原

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

蛤は浜辺の栗よふつくらと

民宿の朝食を待つ炬燵かな

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

肌荒れの激しき枝にくと芽吹く

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

白熊にまだ流水の大いなる

白あればこそその紅白玉椿

おでんの香乗せて回送電車なり

裏庭の最後の雪も解け始む

山奥に漁師さまよふ桃の花

真空を自由落下の羽根布団

湯気あげて春田は息を吹き返す

垂直の力尊し紫木蓮

嬉々として春泥の子となりにけり

点在の赤は躑躅の蕾なり

自転車の香乗せて回送電車なり

竜天に登らんとする電波塔

自転車に乗れて嬉しや花に笑む

圧力の圧力鍋と雲の峰

ふくらんでふつと消えたき春の昼

燕の子庇の上はまだ知らず

シユツと出る泡の石鹼若葉の夜

大陸を行くふらこ子よ、ふらん奴よ

紙よりも鈹おもたし露けしや

産卵を強ひるが如く石榴割る

風船を逃せしほどの一大事

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

ペン先の球よ勤労感謝の日

潮干狩り太平洋は水びたし

寒風の殺風景を吹き渡る

CMはぴりん・ひぴりん風邪薬

スーパ一の屋上に立つ苗木市

亀鳴くと秋の蚯蚓に伝へてよ

鳥雲に寸の未練も残さずに

変換の挙式と出でし虚子忌かな

春なれや桜の鯛に花の烏賊

鳥雲に寸の未練も残さずに

春なれや桜の鯛に花の烏賊

春なれや桜の鯛に花の烏賊

春なれや桜の鯛に花の烏賊

春なれや桜の鯛に花の烏賊

春なれや桜の鯛に花の烏賊

春なれや桜の鯛に花の烏賊

春なれや桜の鯛に花の烏賊

春なれや桜の鯛に花の烏賊

同行のキレを紙のミウたろけ 4.28 21:05  
行く春よ 孤夜の床に 21:10

25 UD

2023.4.29【角2023】選40句

26  
イン 省主室  
cf アメリカのムス

17行3段組14ポ BIZ 5明朝 Wed 太 2023年4月29日 09:54 へ1 桐10

明日は晴れ三月並の気温とや

蝶も来よ浜にひらひら干鰯

CMはぴりん・ひぴりん風邪薬

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

蛤は浜辺の栗よふつくらと

小さき虫顔に当りぬ枯野原

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

肌荒れの激しき枝にくと芽吹く

民宿の朝食を待つ炬燵かな

白熊にまだ流水の大いなる

白あればこそその紅白玉椿

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

裏庭の最後の雪も解け始む

山奥に漁夫のさまよふ桃の花

おでんの香乗せて回送電車なり

湯気あげて春田は息を吹き返す

垂直の力尊し紫木蓮

真空を自由落下の羽根布団

嬉々として春泥の子となりにけり

点在の赤は躑躅の蕾なり

自転車に乗れて嬉しや花に笑む

竜天に登らんとする電波塔

行く春を朝寝の床に見送りぬ

真空を自由落下の羽根布団

ふくらんでふつと消えたき春の昼

行く春を朝寝の床に見送りぬ

真空を自由落下の羽根布団

大陸に行くからこ子よ、ふらん奴よ

圧力の圧力鍋と雲の峰

真空を自由落下の羽根布団

風船を逃せしほどの一大事

燕の子庇の上はまだ知らず

真空を自由落下の羽根布団

潮干狩り太平洋は水びたし

シュツと出る泡の石鹼若葉の夜

真空を自由落下の羽根布団

スーパーの屋上に立つ苗木市

紙よりも鉄おもたし露けしや

真空を自由落下の羽根布団

変換の拳式と出でし虚子忌かな

産卵を強ひるが如く石榴割る

真空を自由落下の羽根布団

亀鳴くと秋の蚯蚓に伝へてよ

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

真空を自由落下の羽根布団

鳥雲に寸の未練も残さずに

ペン先の球よ勤労感謝の日

真空を自由落下の羽根布団

春なれや桜の鯛に花の烏賊

寒風の殺風景を吹き渡る

真空を自由落下の羽根布団

cf 5 明 秋 1 史 } 4 元  
11.12



午後五時頃 午後六時頃

2023・4・29【角川俳句賞2023 プランA191】

選44句

27

段組14ポ BIZ 5 明朝 Mod 太 2023年4月29日 15:46 桐10

明日は晴れ三月並の気温とや  
味噌汁に豆腐切り込む春の雪  
うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ  
白熊にまだ流水の大いなる  
裏庭の最後の雪も解け始む  
湯気あげて春田は息を吹き返す  
眩しさはもう長閑さのハレーション  
嬉々として春泥の子となりにけり  
竜天に登らんとする電波塔  
ふくらんでふつと消えたき春の昼  
大陸を行くからこ子よ、ふらん奴よ  
風船を逃せしほどの一大事  
潮干狩り太平洋は水びたし  
縞模様渦巻模様磯遊  
スーパ一の屋上に立つ苗木市  
変換の拳式と出でし虚子忌かな  
亀鳴くと秋の蚯蚓に伝へてよ

鳥雲に寸の未練も残さずに  
春なれや桜の鯛に花の鳥賊  
蝶も来よ浜にひらひら干蝶  
蛤は浜辺の栗よふつくらと  
肌荒れの激しき枝にくと芽吹く  
白あればこそその紅白玉椿  
山奥に漁夫のさまよふ桃の花  
垂直の力尊し紫木蓮  
点在の赤は躑躅の蕾なり  
一輪のひらくやいなや桜かな  
千本の中の一本桜かな  
自転車に乗れて嬉しや花に笑む  
行く春を朝寝の床に見送りぬ  
風薫る富士は日本一の山  
圧力の圧力鍋と雲の峰  
燕の子庇の上はまだ知らず  
シュツと出る泡の石鹼若葉の夜

← 桐王の祝文

紙よりも鉄おもたし露けしや  
産卵を強ひるが如く石榴割る  
踏切の遠く鳴り出す刈田かな  
ペン先の球よ勤労感謝の日  
寒風の殺風景を吹き渡る  
CMはぴりん・ひぴりん風邪薬  
小さき虫顔に当りぬ枯野原  
民宿の朝食を待つ炬燵かな  
右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ  
おでんの香乗せて回送電車なり  
真空を自由落下の羽根布団

これ以外長編を冬の日に  
お芳あこゆきんけり  
一日なり  
4:15 am



2023.4.30 【角川俳句賞2023 プランA195】

選47句 段組14ポ BIZ 日明朝 Mod 太 2023年4月30日 06:23 桐10

明日は晴れ三月並の気温とや

鳥雲に寸の未練も残さずに

燕の子庇の上はまだ知らず

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

春なれや桜の鯛に花の烏賊

シュツと出る泡の石鹼若葉の夜

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

蝶も来よ浜にひらひら干鰯

紙よりも鉄おもたし露けしや

白熊にまだ流水の大いなる

蛤は浜辺の栗よふつくらと

産卵を強ひるが如く石榴割る

裏庭の最後の雪も解け始む

肌荒れの激しき枝にと芽吹く

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

湯気あげて春田は息を吹き返す

草餅を食ひつつ桜餅のこと

ペン先の球よ勤労感謝の日

それ以外のどかな春の日なりけり

ひとつよりふたつが重し柏餅

寒風の殺風景を吹き渡る

嬉々として春泥の子となりけり

白あればこそその紅白玉椿

CMはぴりん・ひびりん風邪薬

竜天に登らんとする電波塔

山奥に漁夫のさまよふ桃の花

小さき虫顔に当りぬ枯野原

ふくらんでふつと消えたき春の昼

垂直の力尊し紫木蓮

民宿の朝食を待つ炬燵かな

大陸を行くふらこ子よ、ふらん奴よ

点在の赤は躑躅の蕾なり

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

風船を逃せしほどの一大事

一輪のひらくやいなや桜かな

おでんの香乗せて回送電車なり

潮干狩り太平洋は水びたし

千本の中の一木桜かな

真空を自由落下の羽根布団

編模様 渦巻模様 磯遊

自転車に乗れて嬉しや花に笑む

春の花 5.1 3:07 am

スーパ一の屋上に立つ苗木市

行く春を朝寝の床に見送りぬ

春の花 5.2 11:30 pm

変換の拳式と出でし虚子忌かな

風薫る富士は日本一の山

圧力の圧力鍋と雲の峰

亀鳴くと秋の蚯蚓に伝へてよ

圧力の圧力鍋と雲の峰

春の花 5.2 11:30 pm

9:20 am 我々外 9:23 am 11:50 pm

11:47 pm

5.1 8:50 am

4:30 11:57 pm

4:32 pm

皮張りのトアのまたまの 5.1 3:07 am



明日は晴れ三月並の気温とや

蛤は浜辺の栗よふつくらと

産卵を強ひるが如く石榴割る

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

肌荒れの悲しき枝にくと芽吹く

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

草餅を食ひつつ桜餅のこと

ペン先の球よ勤労感謝の日

白熊にまだ流水の大いなる

白あればこそその紅白玉椿

寒風が殺風景を吹き荒ぶ

裏庭の最後の雪も解け始む

山奥に漁夫のさまよふ桃の花

CMはぴりん・ひぴりん風邪薬

湯気あげて春田は息を吹き返す

垂直の力尊し紫木蓮

小さき虫顔に当りぬ枯野原

その後はのどかな春の日なりけり

点在の赤は躑躅の蕾なり

民宿の朝食を待つ炬燵かな

嬉々として春泥の子となりけり

一輪のひらくやいなや桜かな

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

竜天に登らんとする電波塔

自転車に乗れて嬉しや花に笑む

おでんの香乗せて回送電車なり

大陸に行くふらこ子よ、ふらん奴よ

皮張りのドアの分厚き春の闇

真空を自由落下の羽根布団

風船を逃せしほどの一大事

行く春を朝寝の床に見送りぬ

潮干狩り太平洋は水びたし

連休の五月まぶしく美しく

スーパールの屋上に立つ苗木市

風薫る富士は日本一の山

変換の挙式と出でし虚子忌かな

圧力の圧力鍋と雲の峰

亀鳴くと秋の蚯蚓に伝へてよ

燕の子庇の上はまだ知らず

春なれや桜の鯛に花の烏賊

シュツと出る泡の石鹼若葉の夜

蝶も来よ浜にひらひら干鰯

紙よりも鉄おもたし露けしや

明日は晴れ三月並の気温とや

草餅を食ひつつ桜餅のこと

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

白あればこそその紅白玉椿

ペン先の球よ勤労感謝の日

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

肌荒れの悲しき枝にくと芽吹く

寒風が殺風景を吹き荒ぶ

白熊にまだ流水の大いなる

山奥に漁夫のさまよふ桃の花

CMはぴりん・ひぴりん風邪薬

裏庭の最後の雪も解け始む

垂直の力尊し紫木蓮

小さき虫顔に当りぬ枯野原

湯気あげて春田は息を吹き返す

点在の赤は躑躅の蕾なり

民宿の朝食を待つ炬燵かな

その後はのどかな春の日なりけり

一輪のひらくやいなや桜かな

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

嬉々として春泥の子となりけり

自転車に乗れて嬉しや花に笑む

おでんの香乗せて回送電車なり

大陸に行くふらこ子よ、ふらん奴よ

革張りの分厚きドアの春の闇

真空を自由落下の羽根布団

風船を逃せしほどの一大事

行く春を朝寝の床に見送りぬ

潮干狩り太平洋は水びたし

連休の五月まぶしく美しく

磯遊び吾子は貝殻長者なり

風薫る富士は日本一の山

スーパールの屋上に立つ苗木市

圧力の圧力鍋と雲の峰

変換の拳式と出でし虚子忌かな

燕の子庇の上はまだ知らず

亀鳴くと秋の蚯蚓に伝へてよ

シユツと出る泡の石鹼若葉の夜

春なれや桜の鯛に花の烏賊

紙よりも鉢おもたし露けしや

蝶も来よ浜にひらひら干鰯

産卵を強ひるが如く石榴割る



明日は晴れ三月並の気温とや

蝶も来よ浜にひらひら干鰯

△紫陽花にクリーム色はなかるべし

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

草餅を食ひつつ桜餅のこと

これでもか早、日盛、油照

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

白あればこそその紅白玉椿

圧力の圧力鍋と雲の峰

白熊にまだ流水の大いなる

肌荒れの悲しき枝に、と芽吹く

虹の字は直線ばかりうらめしや

裏庭の最後の雪も解け始む

山奥に漁夫のさまよふ桃の花

電あまた打てば響くよボンネット

湯気あげて春田は息を吹き返す

垂直の力尊し紫木蓮

紙よりも鉄おもたし露けしや

その後はのどかな春の日なりけり

点在の赤は躑躅の蕾なり

産卵を強ひるが如く石榴割る

嬉々として春泥の子となりけり

一輪のひらくやいなや桜かな

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

電波塔の天辺いよよ竜天に

自転車に乗れて嬉しや花に笑む

ペン先の球よ勤労感謝の日

大陸を行くふらこ子よ、ふらん奴よ

革張りの分厚きドアの春の闇

寒風が殺風景を吹き荒ぶ

風船を逃せしほどの一大事

寝返りて少し異なる春の夢

CMはぴりん・ひぴりん風邪薬

潮干狩り太平洋は水びたし

行く春を朝寝の床に見送りぬ

小さき虫顔に当りぬ枯野原

磯遊びさても貝殻長者なり

連休の五月まぶしく美しく

民宿の朝食を待つ炬燵かな

スーパーの屋上に立つ苗木市

風薫る富士は日本一の山

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

変換の拳式と出でし虚子忌かな

スカートを広げし如く蛸を干す

おでんの香乗せて回送電車なり

亀鳴くと秋の蚯蚓に伝えてよ

燕の子庇の上はまだ知らず

真空を自由落下の羽根布団

春なれや桜の鯛に花の烏賊

シュツと出る泡の石鹼若葉の夜

のり 45  
5:45 am

R7

31



2023.5.7【角川俳句賞2023

プランA214

選43

3段組14ポ BIZ 明朝 太 2023年5月7日 14:01 桐10

明日は晴れ三月並の気温とや

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

白熊にまだ流水の大いなる

裏庭の最後の雪も解け始む

湯気あげて春田は息を吹き返す

その後はのどかな春の日なりけり

嬉々として春泥の子となりけり

電波塔の天辺いよよ竜天に

大陸を行くふらこ子よ、ふらん奴よ

風船を逃せしほどの一大事

潮干狩り太平洋は水びたし

磯遊びさても貝殻長者なり

スーパ一の屋上に立つ苗木市

変換の拳式と出でし虚子忌かな

亀鳴くと秋の蚯蚓に伝へてよ

春なれや桜の鯛に花の烏賊

蝶も来よ浜にひらひら干鰯

草餅を食ひつつ桜餅のこと

白あればこそその紅白玉椿

肌荒れの悲しき枝に、と芽吹く

山奥を漁夫のさまよふ桃の花

垂直の力尊し紫木蓮

一輪のひらくやいなや桜かな

自転車に乗れて嬉しや花に笑む

行く春を朝寝の床に見送りぬ

連休の五月まぶしく美しく

風薫る富士は日本一の山

スカートを広げし如く蛸を干す

燕の子庇の上はまだ知らず

シユツと出る泡の石鹼若葉の夜

これでもか早、日盛、油照

虹の字は直線ばかりうらめしや

電あまた打てば響くよボンネット

産卵を強ひるが如く石榴割る

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

ペン先の球よ勤労感謝の日

寒風が殺風景を吹き荒ぶ

小さき虫顔に当りぬ枯野原

民宿の朝食を待つ炬燵かな

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

おでんの香乗せて回送電車なり

真空を自由落下の羽根布団

その他は白羽をき 字のこじりに 11:00 6:27pm 8:20 pm 6:27pm

すてふ

再び 春の夜 5:20 pm 2:45 am

補 1 輪のひらくやいなや桜かな 3:30 pm

梅干の風の吹きまゝ 二階から 5:8 4:05 am

ついでにこのたしなむ梅干かな

ついでに梅干の吹きまゝ

梅干の吹きまゝ

竹の心で秋をさるる梅干かな







2023.5.9 【角川俳句賞2023 プランA262】

選51

3段組14ポ BIZ 5明朝 Med 太 2023年5月9日 08:20へ1 桐10

明日は晴れ三月並の気温とや

蝶も来よ浜にひらひら干鰯

虹の字は直線ばかりうらめしや

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

草餅を食ひつつ桜餅のこと

電あまた打てば響くよボンネット

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

白あればこそその紅白玉椿

梅干を吹き来る風の二階かな

白熊にまだ流水の大いなる

肌荒れの悲しき枝にくと芽吹く

逃ぐる蚊を叩き落せし団扇なり

裏庭の最後の雪も解け始む

山奥を漁夫のさまよふ桃の花

下戸にして梅酒造りに長じたり

湯気あげて春田は息を吹き返す

垂直のエレベーターと紫木蓮

巻貝の俤のある鮑かな

その後はのどかな春の日なりけり

一輪のひらくやいなや桜かな

燻されつ鰻屋で食ふ鰻かな

嬉々として春泥の子の駆け出しぬ

自転車に乗れて嬉しや花に笑む

青空にのけ反つて飲むラムネかな

電波塔の天辺いよよ竜天に

行く春を朝寝の床に見送りぬ

産卵を強ひるが如く石榴割る

大陸に行くふらこ子よ、ふらん奴よ

連休の五月まぶしく美しく

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

風船を逃せしほどの一大事

風薫る富士は日本一の山

ペン先の球よ勤労感謝の日

潮干狩り太平洋は水びたし

スカートを広げし如く蛸を干す

寒風が殺風景を吹き荒ぶ

磯遊びさても貝殻長者なり

燕の子庇の上はまだ知らず

小さき虫顔に当りぬ枯野原

スーパーの屋上に立つ苗木市

シュツと出る泡の石鹼若葉の夜

民宿の朝食を待つ炬燵かな

変換の拳式と出でし虚子忌かな

脇へ出て丈の足らざる花菖蒲

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

亀鳴くと秋の蚯蚓に伝へてよ

これでもか早、日盛、油照

おでんの香乗せて回送電車なり

春なれや桜の鯛に花の烏賊

軽雷の遊ぶが如く二度三度

真空を自由落下の羽根布団

10 4am

イトルに

34

7:20am

7:10am

5:50 6:50 am

かたし 11:20 pm



2023・5・10 【角川俳句賞2023】

プランA269

選49句

段組14ポ

BIZ

明朝

Mo

太 2023年5月10日 10:55

桐10

35

明日はもう三月並の気温とや

草餅を食ひつつ桜餅のこと

雹あまた打てば響くよボンネット

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

白あればこそその紅白玉椿

梅干を吹き来る風の二階かな

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

肌荒れの悲しき枝にくと芽吹く

逃ぐる蚊を叩き落せし団扇なり

白熊にまだ流水の大いなる

山奥を漁夫のさまよふ桃の花

下戸にして梅酒造りに長じたり

裏庭の最後の雪も解け始む

垂直のエレベーターと紫木蓮

巻貝の俤のある鮑かな

湯気あげて春田は息を吹き返す

一輪のひらくやいなやかの桜

燻されつ鰻屋で食ふ鰻かな

その後はのどかな春の日なりけり

自転車に乗れて嬉しや花に笑む

青空にのけ反つて飲むラムネかな

電波塔の天辺いよよ竜天に

行く春を朝寝の床に惜みけり

産卵を強ひるが如く石榴割る

大陸に行くふらこ子よ、ふらん奴よ

連休の五月まぶしく美しく

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

風船を逃せしほどの一大事

風薫る富士は日本一の山

寒風が殺風景の中を吹く

潮干狩り太平洋は水びたし

スカートを広げし如く蛸を干す

小さき虫顔に当りぬ枯野原

磯遊びさても貝殻長者なり

燕の子庇の上はまだ知らず

民宿の朝食を待つ炬燵かな

スーパーの屋上に立つ苗木市

シユツと出る泡の石鹼若葉の夜

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

変換の拳式と出でし虚子忌かな

脇へ出て丈の足らざる花菖蒲

おでんの香乗せて回送電車なり

亀鳴くと秋の蚯蚓に伝へてよ

これでもか早、日盛、油照

真空を自由落下の羽根布団

春なれや桜の鯛に花の烏賊

軽雷の遊ぶが如く二度三度

蝶も来よ浜にひらひら干鰯

虹の字は直線ばかり堅苦し



春の軽  
↑ 統一

2023.5.11

【角川俳句賞2023 プランA253】

(36)

選51句

段組14ポ BIZ 日明朝 Mon 太 2023年5月11日 17:09 <1> 桐10

明日はもう三月並の気温とや

蝶も来よ浜にひらひら干鱈

虹の字は直線ばかり堅苦し

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

草餅を食ひつつ桜餅のこと

電あまた打てば響くよボンネット

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

白あればこそその紅白玉椿

梅干を吹き来る風の二階かな

白熊にまだ流水の大いなる

肌荒れの悲しき枝にと芽吹く

逃ぐる蚊を叩き落せし団扇なり

裏庭の最後の雪も解け始む

山奥を漁夫のさまよふ桃の花

下戸にして梅酒造りに長じたり

湯気あげて春田は息を吹き返す

△ 垂直のエレベーターと紫木蓮

巻貝の俤のある鮑かな

その後はのどかな春の日なりけり

一輪のひらくやいなやかイトルの桜

燻されつ鰻屋で食ふ鰻かな

電波塔の天辺いよよ竜天に

自転車に乗れて嬉しや花に笑む

青空にのけ反つて飲むラムネかな

大陸を行くふらこ子よ、ふらん奴よ

行く春を朝寝の床に惜みけり

産卵を強ひるが如く石榴割る

風船を逃せしほどの一大事

連休の五月まぶしく美しく

菜箸の長き直線流れ星

潮干狩り太平洋は水びたし

風薫る富士は日本一の山

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

磯遊びさても貝殻長者なり

スカートを広げし如く蛸を干す

寒風が殺風景の中を吹く

スーパーの屋上に立つ苗木市

燕の子庇の上はまだ知らず

小さき虫顔に当りぬ枯野原

変換の拳式と出でし虚子忌かな

シユツと出る泡の石鹼若葉の夜

民宿の朝食を待つ炬燵かな

昭和の日ひとつ令和の日々の中

△ 脇へ出て丈の足らざる花菖蒲

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

亀鳴くと秋の蚯蚓に伝へてよ

これでもか早、日盛、油照

おでんの香乗せて回送電車なり

春なれや桜の鯛に花の烏賊

軽雷の遊ぶが如く二度三度

真空を自由落下の羽根布団

日 5.12 0:20 am

5.12 0:17 am

5.12 0:15 am



明日はもう三月並の気温とや

蝶も来よ浜にひらひら干蝶

霞あまた打てば響くよボンネット

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

草餅を食ひつつ桜餅のこと

梅干を吹き来る風の二階かな

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

白あればこそその紅白玉椿

逃ぐる蚊を叩き落せし団扇なり

白熊にまだ流水の大いなる

肌荒れの寂しき枝にくと芽吹く

下戸にして梅酒造りに長じたり

裏庭の最後の雪も解け始む

山奥を漁夫のさまよふ桃の花

巻貝の俤のある鮑かな

湯気あげて春田は息を吹き返す

垂直のエレベーターと紫木蓮

燻されつ鰻屋で食ふ鰻かな

その後はのどかな春の日なりけり

一輪のひらくやいなやか桜

青空にのけ反つて飲むラムネかな

電波塔の天辺いよよ竜天に

自転車に乗れて嬉しや花も笑む

産卵を強ひるが如く石榴割る

大陸に行くふらこ子よ、ふらん奴よ

行く春を朝寝の床に惜みけり

菜箸の長き直線流れ星

風船を逃せしほどの一大事

連休の五月まぶしく美しく

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

潮干狩り太平洋は水びたし

風薫る富士は日本一の山

寒風が殺風景に苛立ちぬ

磯遊びさても貝殻長者なり

スカートを広げし如く蛸を干す

小さき虫顔に当りぬ枯野原

スーパ一の屋上に立つ苗木市

燕の子庇の上はまだ知らず

民宿の朝食を待つ炬燵かな

変換の挙式と出でし虚子忌かな

シュツと出る泡の石鹼若葉の夜

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

昭和の日祝ふ令和の日々の中

これでもか早、日盛、油照

おでんの香乗せて回送電車なり

亀鳴くと秋の蚯蚓に伝へてよ

軽雷の遊ぶが如く二度三度

真空を自由落下の羽根布団

春なれや桜の鯛に花の烏賊

虹の字は直線ばかり堅苦し

5.14 2:40pm  
① 休に

5.14 3:55 am



38

明日はもう三月並の気温とや

蝶も来よ浜にひらひら干蝶

雹あまた打てば響くよボンネット

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

草餅を食ひつつ桜餅のこと

梅干を吹き来る風の二階かな

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

白あればこそその紅白玉椿

逃ぐる蚊を叩き落せし団扇なり

白熊にまだ流水の大いなる

肌荒れの寂しき枝にくと芽吹く

下戸にして梅酒造りに長じたり

裏庭の最後の雪も解け始む

山奥を漁夫のさまよふ桃の花

巻貝の俤のある鮑かな

湯気あげて春田は息を吹き返す

垂直のエレベーターと紫木蓮

燻されつ鰻屋で食ふ鰻かな

その後はのどかな春の日なりけり

一輪のひらくやいなやか桜

青空にのけ反つて飲むラムネかな

電波塔の天辺いよよ竜天に

自転車に乗れて嬉しや花も笑む

産卵を強ひるが如く石榴割る

大陸に行くふらこ子よ、ふらん奴よ

行く春を朝寝の床に惜みけり

菜箸の長き直線流れ星

風船を逃せしほどの一大事

連休の五月まぶしく美しく

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

潮干狩り太平洋は水びたし

風薫る富士は日本一の山

寒風が殺風景に苛立ちて

磯遊びさても貝殻長者なり

スカートを広げし如く蛸を干す

小さき虫顔に当りぬ枯野原

スーパリーの屋上に立つ苗木市

燕の子庇の上はまだ知らず

民宿の朝食を待つ炬燵かな

変換の挙式と出でし虚子忌かな

シユツと出る泡の石鹼若葉の夜

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

昭和の日祝ふ令和の連休に

これでもか早、日盛、油照

おでんの香乗せて回送電車なり

亀鳴くと秋の蚯蚓に伝えてよ

軽雷の遊ぶが如く二度三度

真空を自由落下の羽根布団

春なれや桜の鯛に花の烏賊

虹の字は直線ばかり堅苦し



39

明日はもう三月並の気温とや

蝶も来よ浜にひらひら干鱈

雹あまた打てば響くよボンネット

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

草餅を食ひつつ桜餅のこと

梅干を吹き来る風の二階かな

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

白あればこそその紅白玉椿

逃ぐる蚊を叩き落せし団扇なり

裏庭の最後の雪も解け始む

肌荒れの寂しき枝にくと芽吹く

下戸にして梅酒造りに長じたり

白熊を乗せ流氷8.43 P.Mの木いなる

山奥を漁夫のさまよふ桃の花

巻貝の俤のある鮑かな

湯気あげて春田は息を吹き返す

垂直此まは仰ぐべきのエレベーターと紫木蓮

燻されつ鰻屋で食ふ鰻かな

その後はのどかな春の日なりけり

一輪のひらくやいなやかの桜

青空にのけ反るやうに飲むラムネ

電波塔の天辺いよよ竜天に

自転車に乗れて嬉しや花も笑む

産卵を強ひるが如く石榴割る

大陸に行くふらこ子よ、ふらん奴よ

行く春を朝寝の床に惜みけり

菜箸の長き直線流れ星

風船を逃せしほどの一大事

連休の五月まぶしく美しく

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

潮干狩り太平洋は水びたし

風薫る富士は日本一の山

寒風が殺風景に苛立ちて

磯遊びさても貝殻長者なり

スカートを広げし如く蛸を干す

小さき虫顔に当りぬ枯野原

スーパーの屋上に立つ苗木市

燕の子庇の上はまだ知らず

民宿の朝食を待つ炬燵かな

変換の拳式と出でし虚子忌かな

シユツと出る泡の石鹼若葉の夜

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

昭和の日祝ふ令和の連休に

これでもか早、日盛、油照

おでんの香乗せて回送電車なり

亀鳴くと秋の蚯蚓に伝へてよ

軽雷の遊ぶが如く二度三度

真空を自由落下の羽根布団

春なれや桜の鯛に花の烏賊

虹の字は直線ばかり堅苦し







スゴウ2.0  
コナキの枝

ひ白紙

明日はもう三月並の気温とや  
味噌汁に豆腐切り込む春の雪  
うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ  
裏庭の最後の雪も解け始む  
白熊を乗せて流水大いなる  
湯気あげて春田は息を吹き返す  
その後はのどかな春の日なりけり  
電波塔の天辺いよよ竜天に  
大陸に行くふらこ子よ、ふらん奴よ  
風船を逃せしほどの一大事  
潮干狩り太平洋は水びたし  
磯遊びさても貝殻長者なり  
スーパーの屋上に立つ苗木市  
変換の拳式と出でし虚子忌かな  
昭和の日祝ふ令和の連休に  
亀鳴くと秋の蚯蚓に伝へてよ  
春なれや桜の鯛に花の烏賊

蝶も来よ浜にひらひら干鰯  
草餅を食ひつつ桜餅のこと  
白あればこそその紅白玉椿  
肌荒れの貧しき枝にくと芽吹く  
山奥を漁夫のさまよふ桃の花  
紫木蓮とは紫の立姿

一輪のひらくやいなやかの桜  
自転車に乗れて嬉しや花も笑む  
行く春を朝寝の床に惜みけり  
連休の五月まぶしく美しく  
風薫る富士は日本一の山  
スカートを広げし如く蛸を干す  
燕の子庇の上はまだ知らず  
シュツと出る泡の石鹼若葉の夜  
これでもか早、日盛、油照  
軽雷の遊ぶが如く二度三度  
虹の字は直線ばかり堅苦し

電波塔の天辺いよよ竜天に  
大陸に行くふらこ子よ、ふらん奴よ  
風船を逃せしほどの一大事  
潮干狩り太平洋は水びたし  
磯遊びさても貝殻長者なり  
スーパーの屋上に立つ苗木市  
変換の拳式と出でし虚子忌かな  
昭和の日祝ふ令和の連休に  
亀鳴くと秋の蚯蚓に伝へてよ  
春なれや桜の鯛に花の烏賊

3:40pm

霞あまた打てば響くよボンネット  
梅干を吹き来る風の二階かな  
逃ぐる蚊を叩き落せし団扇なり  
下戸にして梅酒造りに長じたり  
巻貝の俤のある鮑かな  
燻されつ鰻屋で食ふ鰻かな  
青空にのけ反るやうに飲むラムネ  
産卵を強ひるが如く石榴割る  
菜箸の長き直線流れ星  
踏切の遠く鳴り出す刈田かな  
寒風が殺風景を切り裂けり  
小さき虫顔に当りぬ枯野原  
民宿の朝食を待つ炬燵かな  
右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ  
おでんの香乗せて回送電車なり  
真空を自由落下の羽根布団

蝶も来よ浜にひらひら干鰯  
草餅を食ひつつ桜餅のこと  
白あればこそその紅白玉椿  
肌荒れの貧しき枝にくと芽吹く  
山奥を漁夫のさまよふ桃の花  
紫木蓮とは紫の立姿  
一輪のひらくやいなやかの桜  
自転車に乗れて嬉しや花も笑む  
行く春を朝寝の床に惜みけり  
連休の五月まぶしく美しく  
風薫る富士は日本一の山  
スカートを広げし如く蛸を干す  
燕の子庇の上はまだ知らず  
シュツと出る泡の石鹼若葉の夜  
これでもか早、日盛、油照  
軽雷の遊ぶが如く二度三度  
虹の字は直線ばかり堅苦し

明日はもう三月並の気温とや  
味噌汁に豆腐切り込む春の雪  
うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ  
裏庭の最後の雪も解け始む  
白熊を乗せて流水大いなる  
湯気あげて春田は息を吹き返す  
その後はのどかな春の日なりけり  
電波塔の天辺いよよ竜天に  
大陸に行くふらこ子よ、ふらん奴よ  
風船を逃せしほどの一大事  
潮干狩り太平洋は水びたし  
磯遊びさても貝殻長者なり  
スーパーの屋上に立つ苗木市  
変換の拳式と出でし虚子忌かな  
昭和の日祝ふ令和の連休に  
亀鳴くと秋の蚯蚓に伝へてよ  
春なれや桜の鯛に花の烏賊



42

明日はもう三月並の気温とや

蝶も来よ浜にひらひら干鱈

雹あまた打てば響くよボンネット

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

草餅を食ひつつ桜餅のこと

梅干を吹き来る風の二階かな

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

白あればこそその紅白玉椿

逃ぐる蚊を叩き落せし団扇なり

裏庭の最後の雪も解け始む

肌荒れの貧しき枝にくと芽吹く

不戸にして梅酒造りに長じたり

白熊を乗せて流水大いなる

山奥を漁夫のさまよふ桃の花

巻貝の俤のある鮑かな

湯気あげて春田は息を吹き返す

紫木蓮いざ紫の立姿

煙たさの鰻屋で食ふ鰻かな

その後はのどかな春の日なりけり

一輪のひらくやいなやかの桜

青空にのけ反るやうに飲むラムネ

電波塔の天辺いよよ竜天に

自転車に乗れて嬉しや花も笑む

産卵を強ひるが如く石榴割る

大陸を行くふらこ子よ、ふらん奴よ

行く春を朝寝の床に惜みけり

菜箸の長き直線流れ星

風船を逃せしほどの一大事

連休の五月まぶしく美しく

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

潮干狩り太平洋は水びたし

風薫る富士は日本一の山

寒風が殺風景を切り裂けり

磯遊びさても貝殻長者なり

スカートを広げし如く蛸を干す

小さき虫顔に当りぬ枯野原

スーパリーの屋上に立つ苗木市

燕の子庇の上はまだ知らず

民宿の朝食を待つ炬燵かな

変換の挙式と出でし虚子忌かな

シユツと出る泡の石鹼若葉の夜

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

昭和の日祝ふ令和の連休に

これでもか早、日盛、油照

おでんの香乗せて回送電車なり

亀鳴くと秋の蚯蚓に伝へてよ

軽雷の遊ぶが如く二度三度

真空を自由落下の羽根布団

春なれや桜の鯛に花の烏賊

虹の字は直線ばかり堅苦し

流を比す

X

4:57:05 am

うきうき

4:57:25 am

AB



明日はもう三月並の気温とや

草餅を食ひつつ桜餅のこと

●わくわくの予定きらきらの夏休

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

白あればこそその紅白玉椿

夏休の擦傷・打撲・虫刺され

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

肌荒れの貧しき枝にくと芽吹く

梅干を吹き来る風の二階かな

裏庭の最後の雪も解け始む

山奥を漁夫のさまよふ桃の花

下戸にして梅酒造りに長じたり

白熊を乗せて流水大いなる

紫木蓮いざ紫の立姿

巻貝の俤のある鮑かな

湯気あげて春田は息を吹き返す

一輪のひらくやいなやかの桜

煙たさの鰻屋で食ふ鰻かな

その後はのどかな春の日なりけり

自転車に乗れて嬉しや花も笑む

逃ぐる蚊を叩き落せし団扇なり

電波塔の天辺いよよ竜天に

行く春を朝寝の床に惜みけり

産卵を強ひるが如く石榴割る

風船を逃せしほどの一大事

連休の五月まぶしく美しく

菜箸の長き直線流れ星

潮干狩り太平洋は水びたし

風薫る富士は日本一の山

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

磯遊びさても貝殻長者なり

スカートを広げし如く蛸を干す

~~寒風~~が殺風景を切り裂けり

スーパーの屋上に立つ苗木市

燕の子庇の上はまだ知らず

小さき虫顔に当りぬ枯野原

変換の挙式と出でし虚子忌かな

シユツと出る泡の石鹼若葉の夜

民宿の朝食を待つ炬燵かな

昭和の日祝ふ令和の連休に

軽雷の遊ぶが如く二度三度

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

亀鳴くと秋の蚯蚓に伝へてよ

これでもか早、日盛、油照

おでんの香乗せて回送電車なり

春なれや桜の鯛に花の烏賊

虹の字は直線ばかり堅苦し

真空を自由落下の羽根布団

蝶も来よ浜にひらひら干鰯

電あまた打てば響くよボンネット



明日はもう三月並の気温とや

蝶も来よ浜にひらひら干鰯

霞あまた打てば響くよボンネット

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

草餅を食ひつつ桜餅のこと

梅干を吹き来る風の二階かな

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

白あればこそその紅白玉椿

逃ぐる蚊を叩き落せし団扇なり

裏庭の最後の雪も解け始む

肌荒れの貧しき枝にくと芽吹く

下戸にして梅酒造りに長じたり

白熊を乗せて流水大いなる

山奥を漁夫のさまよふ桃の花

夏休の擦傷・打撲・虫刺され

湯気あげて春田は息を吹き返す

紫木蓮 いざ紫の立姿

わくわくの予定きらきらの夏休

その後はのどかな春の日なりけり

一輪のひらくやいなやかの桜

巻貝の俤のある鮑かな

電波塔の天辺いよよ竜天に

自転車に乗れて嬉しや花も笑む

煙たさの鰻屋で食ふ鰻かな

ぶらんこを漕ぐや没日に抗すべく

行く春を朝寝の床に惜みけり

産卵を強ひるが如く石榴割る

風船を逃せしほどの一大事

連休の五月まぶしく美しく

菜箸の長き直線流れ星

潮干狩り太平洋は水びたし

風薫る富士は日本一の山

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

磯遊びさても貝殻長者なり

スカートを広げし如く蛸を干す

小さき虫顔に当りぬ枯野原

スーパ一の屋上に立つ苗木市

燕の子庇の上はまだ知らず

民宿の朝食を待つ炬燵かな

変換の挙式と出でし虚子忌かな

シュツと出る泡の石鹼若葉の夜

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

昭和の日祝ふ令和の連休に

これでもか早、日盛、油照

おでんの香乗せて回送電車なり

亀鳴くと秋の蚯蚓に伝へてよ

軽雷の遊ぶが如く二度三度

真空を自由落下の羽根布団

春なれや桜の鯛に花の烏賊

虹の字は直線ばかり堅苦し

4x

夏休の擦傷・打撲・虫刺され

わくわくの予定きらきらの夏休



明日はもう三月並の気温とや

蝶も来よ浜にひらひら干鰯

霞あまた打てば響くよボンネット

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

草餅を食ひつつ桜餅のこと

梅干を吹き来る風の二階かな

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

白あればこそその紅白玉椿

下戸にして梅酒造りに長じたり

裏庭の最後の雪も解け始む

肌荒れの貧しき枝にくと芽吹く

逃ぐる蚊を叩き落せし団扇なり

白熊を乗せて流水大いなる

山奥を漁夫のさまよふ桃の花

わくわくの予定きらきらの夏休

湯気あげて春田は息を吹き返す

紫木蓮 いざ紫の立姿

夏休の擦傷・打撲・虫刺され

その後はのどかな春の日なりけり

一輪のひらくやいなやかの桜

巻貝の俤のある鮑かな

電波塔の天辺いよよ竜天に

自転車に乗れて嬉しや花も笑む

煙たさの鰻屋で食ふ鰻かな

ぶらんこを漕ぐや没日に抗すべく

行く春を朝寝の床に惜みけり

産卵を強ひるが如く石榴割る

風船を逃せしほどの一大事

連休の五月まぶしく美しく

菜箸の長き直線流れ星

潮干狩り太平洋は水びたし

風薫る富士は日本一の山

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

磯遊びさても貝殻長者なり

スカートを広げし如く蛸を干す

小さき虫顔に当りぬ枯野原

スーパ一の屋上に立つ苗木市

燕の子庇の上はまだ知らず

民宿の朝食を待つ炬燵かな

変換の拳式と出でし虚子忌かな

シュツと出る泡の石鹼若葉の夜

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

昭和の日祝ふ令和の連休に

軽雷の遊ぶが如く二度三度

おでんの香乗せて回送電車なり

亀鳴くと秋の蚯蚓に伝へてよ

これでもか早、日盛、油照

真空を自由落下の羽根布団

春なれや桜の鯛に花の烏賊

虹の字は直線ばかり堅苦し

★北花

45

上分



46

明日はもう三月並の気温とや

春なれや桜の鯛に花の鳥賊

雪あまた打てば響くよボンネット

味噌汁に豆腐切り込む春の雪

蝶も来よ浜にひらひら干鰯

下戸にして梅酒造りに長じたり

うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ

草餅を食ひつつ桜餅のこと

逃ぐる蚊を叩き落せし団扇なり

裏庭の最後の雪も解け始む

白あればこそその紅白玉椿

わくわくの予定きらきらの夏休

白熊を乗せて流水大いなる

肌荒れの貧しき枝にくと芽吹く

夏休の擦傷・打撲・虫刺され

臘夜の餡子作りの白砂糖

山奥を漁夫のさまよふ桃の花

自らの影に憩へば涼しかる

湯気あげて春田は息を吹き返す

紫木蓮 いざ紫の立姿

巻貝の俤のある鮑かな

その後はのどかな春の日なりけり

自転車に乗れて嬉しや花も笑む

煙たさの鰻屋で食ふ鰻かな

電波塔の天辺いよよ竜天に

行く春を朝寝の床に惜みけり

産卵を強ひるが如く石榴割る

ぶらんこを漕ぐや没日に抗すべく

連休の五月まぶしく美しく

菜箸の長き直線流れ星

風船を逃せしほどの一大事

風薫る富士は日本一の山

踏切の遠く鳴り出す刈田かな

潮干狩り太平洋は水びたし

スカートを広げし如く蛸を干す

小さき虫顔に当りぬ枯野原

磯遊びさても貝殻長者なり

燕の子庇の上はまだ知らず

民宿の朝食を待つ炬燵かな

スーパールの屋上に立つ苗木市

シュツと出る泡の石鹼若葉の夜

右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ

変換の拳式と出でし虚子忌かな

軽雷の遊ぶが如く二度三度

おでんの香乗せて回送電車なり

昭和の日祝ふ令和の連休に

これでもか早、日盛、油照

真空を自由落下の羽根布団

亀鳴くと秋の蚯蚓に伝へてよ

虹の字は直線ばかり堅苦し

おでん



47

明日はもう三月並の気温とや  
味噌汁に豆腐切り込む春の雪  
うすら氷を柄杓で除けて漱ぐ  
裏庭の最後の雪も解け始む  
白熊を乗せて流水大いなる  
臘夜の餡子作りの白砂糖  
湯気あげて春田は息を吹き返す  
その後はのどかな春の日なりけり  
電波塔の天辺いよよ竜天に  
ぶらんこを漕ぐや没日に抗すべく  
風船を逃せしほどの一大事  
潮干狩り太平洋は水びたし  
磯遊びさても貝殻長者なり  
スーパールの屋上に立つ苗木市  
変換の挙式と出でし虚子忌かな  
昭和の日祝ふ令和の連休に  
亀鳴くと秋の蚯蚓に伝へてよ

春なれや桜の鯛に花の烏賊  
蝶も来よ浜にひらひら干鰯  
草餅を食ひつつ桜餅のこと  
白あればこそその紅白玉椿  
肌荒れの貧しき枝にくと芽吹く  
山奥を漁夫のさまよふ桃の花  
紫木蓮いざ紫の立姿  
自転車に乗れて嬉しや花も笑む  
行く春を朝寝の床に惜みけり  
連休の五月まぶしく美しく  
風薫る富士は日本一の山  
スカートを広げし如く蛸を干す  
燕の子庇の上はまだ知らず  
シュツと出る泡の石鹼若葉の夜  
軽雷の遊ぶが如く二度三度  
これでもか早、日盛、油照  
虹の字は直線ばかり素気なし

雹あまた打てば響くよボンネット  
下戸にして梅酒造りに長じたり  
逃ぐる蚊を叩き落せし団扇なり  
わくわくの予定きらきらの夏休  
夏休の擦傷・打撲・虫刺され  
自らの影に憩へば涼しかる  
巻貝の俤のある鮑かな  
煙たさの鰻屋で食ふ鰻かな  
産卵を強ひるが如く石榴割る  
菜箸の長き直線流れ星  
踏切の遠く鳴り出す刈田かな  
小さき虫顔に当りぬ枯野原  
民宿の朝食を待つ炬燵かな  
右に虎左に牡鹿暖炉燃ゆ  
おでんの香乗せて回送電車なり  
真空を自由落下の羽根布団